

令和 8 年 8 月 20 日

行政視察活動記録

議会運営委員会
委員長 多田 泰宏

年 月 日	令和 8 年 8 月 17 日から令和 8 年 8 月 18 日 まで
場所 及び目的	愛知県尾張旭市議会 ・ 議会の広報広聴活動について 1. 市民との意見交換会 2. わくわく親子議会探検ツアー 滋賀県彦根市議会 ・ 議会の広報広聴活動について 1. 議会報告会 2. 子ども議会

年 月 日	令和 8 年 8 月 17 日（月）
相手方 及び目的	愛知県尾張旭市議会 議会の広報広聴活動について 1. 市民との意見交換会 2. わくわく親子議会探検ツアー さぬき市議会基本条例、第 2 条（議会の活動原則）に掲げる、議会として市民の多様な意見を的確に把握するための取組や、市民参加を促進する取組について先進事例を学び、今後の議会運営に生かすための、参考とするため行政視察を行った。
内容・ 結果等	尾張旭市議会よりさかえ 章演議長の挨拶の後、山下 由香議会事務局議事課次長 兼 課長、金城 唯誠議事係長、水野 彰子庶務係長らの出席のもと、事前に送付した質問に対する回答も交えながら説明を受け、質疑応答を行った。 市制施行 昭和 45 年 12 月 1 日、東春日井郡旭町が市制を施行。 人 口 83,641 人（R8. 7. 31 現在） 面 積 21.03 km ² 一般会計予算額（令和 8 年度当初）325 億 6,000 万円 議員定数 20 人

委員会構成

委員会名	定数	備考
議会運営委員会	8 人	
総務委員会	7 人	
福祉文教委員会	7 人	
都市環境委員会	6 人	
予算決算委員会	20 人	議長、監査委員を含む
広報広聴委員会	7 人	

【広報広聴活動への取組について】

尾張旭市議会は、市民に開かれた議会づくりに力を入れており、「市民との意見交換会」や「議会報告会」、「わくわく親子議会探検ツアー」など、世代を問わず議会への関心を高める独自の施策を実施している。

1. 市民との意見交換会について

平成 28 年 11 月、議長の「市内にある団体と意見交換する機会をつくりたい。」という意向を踏まえて試行的に開催。市議会として有意義な取り組みであったため、本格的に実施するにあたり、平成 29 年 6 月 1 日に、尾張旭市議会意見交換会実施要綱を制定し、議会及び議員の活動について理解を深めてもらうとともに、市民の様々な意見を参考にし、政策提案機能の強化を図り、市政に生かすことを目的とし、市内で活動する団体や自治会等との意見交換会も積極的に実施している。

【実施方法】

- ・対象者 尾張旭市内で活動する団体、または自治会など
- ・申込方法 開催希望日の 3 ヶ月前までに、団体側から議会へ申込書を提出
- ・テーマ設定 各委員会で政策立案を検討している事項について、「どうなる？ どうする？ 中学校部活動」のように、市民にわかりやすいテーマになるよう設定
- ・開催時間 1 回あたり 1 時間～1 時間 30 分程度
- ・参加議員 テーマや内容に応じて、関連する常任委員会の委員や希望する議員が参加

実施後は、聴きっぱなしにせず、出た意見を議会内で共有するため、意見交換会の終了後、1 か月以内に内容をまとめた報告書を議長に提出することが実施要綱で定められており、まとめられた報告書は市のホームページで公開され、どのような意見が出され、議会としてどう受け止めたかが市民に見える化されている。また、参加者からの意見は政策立案を進める際の参考としているほか、

市長部局に対して、必要に応じて情報共有が行われている。

2. 「わくわく親子議会探検ツアー」について

市長部局で開催していた「市長を囲む子ども議会」のあり方が変わったことを契機に、令和元年から議会事務局が主催となり、子どもたちにもっと議会のことを知ってもらう機会をつくる目的で「わくわく親子議会探検ツアー」を開催。令和5年8月に現在の議会主催となる。

【令和7年度の開催内容】

- ・ 目的 次代を担う子どもたちとその保護者に、市議会及び市政への理解と関心を深めてもらう
- ・ 開催日時 令和7年8月7日（木）
第1部：10:30～12:00/第2部：14:00～15:30
- ・ 開催場所 尾張旭市役所5階 議場
- ・ 開催内容 市議会クイズ、議場等の探検、記念撮影などを実施
- ・ 対象者 市内在住の小学生4～6年生の児童とその保護者
※各回12組（先着）
- ・ 募集方法 二次元コードを使用した募集（参加無料）

○当日の流れ

対応は、正・副議長、議会運営委員長、3常任委員長が担当

- ①開始ブザー
- ②議長挨拶
- ③副議長挨拶
- ④市議会や市議会議員に関する説明（議運委員長）
- ⑤市議会クイズ（正・副議長）
- ⑥探検ツアー（正・副議長・議運委員長・4常任委員会委員長ほか）
- ⑦講評（議長）
- ⑧修了証の進呈（議長）
- ⑨尾張旭市のゆるキャラあさぴーと記念撮影
- ⑩アンケート記入

○探検ツアーの内容

参加者を午前・午後の2つのグループに分けて探検開始

探検場所

- | | |
|--------|--------------|
| 議場 | （議会運営委員長が説明） |
| 第1委員会室 | （福祉文教委員長が説明） |
| 第2委員会室 | （総務委員長が説明） |
| 議長応接室 | （議長が説明） |

正副議長室 (副議長が説明)
議会図書室 (都市環境委員長が説明)

令和7年8月に開催された「わくわく親子議会探検ツアー」には、児童と保護者19組50名が参加し、子どもたちが楽しめるスタンプラリーやくじ引き、また参加児童だけでなく、同伴の子どもにも同様に記念品がプレゼントされるなど、様々な工夫が功を奏し、参加者アンケートの結果、市議会や議員を身近に感じる事ができたと、児童や保護者からは大変好評だった。今後の課題として、より多くの児童に参加してもらえよう、開催方法等をさらに検討していく必要があるとしている。



【所感】

尾張旭市議会の広聴活動は、尾張旭市議会基本条例の理念である「市民に開かれた議会」を体现するため、子ども・若者・一般市民・各種団体などのターゲット層ごとに最適な方法手段を使い分けている点が今後の活動の参考になった。

意見交換会や議会報告会では、聴取した意見を1ヶ月以内に報告書としてまとめ、ホームページ等で公開する方法は、単に議会から情報を発信する「広報」とどまらず、市民の声を直接聴き、市政に反映させる「広聴」の仕組みが構築されており、議会の説明責任を果たす優れた仕組みであると言える。

多くの地方議会が議会報告会への参加者減少・固定化という課題を抱える中、尾張旭市議会が実践した常任委員会ごとのテーマ設定型の報告会の実施や、市民生活に直結する具体的なテーマ設定は、普段議会に関心のない層の参加を促す素晴らしい工夫であると感じた。

また、わくわく親子議会探検ツアーについては、主権者教育の一環として行われていることに新たな視点と感じた。尾張旭市議会では、いかに子供に興味を持ってもらうかを考えながら企画しているが、議員が企画を行うことで、自身の仕事を見つめ直す機会となる副次的効果も大いに期待できる。

視察を通じて、議会広聴の充実には「手法の多様化」と「市民の関心に寄り添う姿勢」が不可欠であることを再認識した。

	さぬき市議会としても、市民と身近に接し、市民の多様な意見を的確に把握し、市政に反映させるために、新たな仕組みづくりのための議論を深めていきたい。
備 考	(参加者) 議会運営委員会委員 8 名、議長、議会事務局 2 名 計 1 1 名

年 月 日	令和 7 年 8 月 18 日（火）																															
相手方 及び目的	滋賀県彦根市議会 議会の広報広聴活動について 1. 議会報告会 2. 子ども議会 さぬき市議会基本条例、第 2 条(議会の活動原則)に掲げる、議会として市民の多様な意見を的確に把握するための取組みや、市民参加を促進する取組みについて先進事例を学び、今後の議会運営に生かすための参考とするため行政視察を行った。																															
内容・ 結果等	彦根市議会より長崎 任男議長の挨拶の後、奥野 嘉己議会改革特別委員、黒澤 茂樹議会改革特別委員らの出席のもと、事前に送付した質問に対する回答も交えながら説明を受け、質疑応答を行った。 市制施行 昭和 12 年 2 月 11 日に市制を施行し、以後、合併を重ね昭和 43 年 4 月 1 日に現在の彦根市となる。 人 口 110,154 人 (R8. 7. 31 現在) 面 積 196. 87 km² 一般会計予算額（令和 8 年度当初）507 億 4,400 万円 議員定数 24 人 委員会構成 <table><tr><th>委員会名</th><th>定数</th><th>備考</th></tr><tr><td>議会運営委員会</td><td>8 人</td><td></td></tr><tr><td>企画総務消防常任委員会</td><td>8 人</td><td></td></tr><tr><td>福祉病院教育常任委員会</td><td>8 人</td><td></td></tr><tr><td>市民産業建設常任委員会</td><td>8 人</td><td></td></tr><tr><td>予算常任委員会</td><td>12 人</td><td></td></tr><tr><td>議会改革特別委員会</td><td>8 人</td><td></td></tr><tr><td>議場開放促進委員会</td><td>8 人</td><td></td></tr><tr><td>広報委員会</td><td>8 人</td><td></td></tr><tr><td>広聴委員会</td><td>8 人</td><td></td></tr></table> 【広報広聴活動への取組について】 彦根市では平成 24 年に議会に関する市民アンケートを実施したところ、主な意見として「市議会に関心がない」「市民との対話の場がない」「議員の活動内容がわからない」などが寄せられたため、広報広聴の取組のために、「議場開放		委員会名	定数	備考	議会運営委員会	8 人		企画総務消防常任委員会	8 人		福祉病院教育常任委員会	8 人		市民産業建設常任委員会	8 人		予算常任委員会	12 人		議会改革特別委員会	8 人		議場開放促進委員会	8 人		広報委員会	8 人		広聴委員会	8 人	
委員会名	定数	備考																														
議会運営委員会	8 人																															
企画総務消防常任委員会	8 人																															
福祉病院教育常任委員会	8 人																															
市民産業建設常任委員会	8 人																															
予算常任委員会	12 人																															
議会改革特別委員会	8 人																															
議場開放促進委員会	8 人																															
広報委員会	8 人																															
広聴委員会	8 人																															

促進委員会」「広報委員会」「広聴委員会」など3つの委員会を設置し、議場の開放や子ども議会、議会報告会など様々な議会改革の取組を行っている。

1. 議会報告会について

彦根市の議会報告会は、平成26年度から実施している。

【開催手法】

- ・平成26年度 対面方式
- ・平成27年度・28年度 市民や高校生・大学生とのワークショップ方式
- ・平成29年度～令和元年度 ワールドカフェ方式
- ・令和2年度 コロナ禍を受けてオンライン議会報告会
- ・令和3年度・令和4年度 小規模対面方式

このように様々な方式で開催しているのは、毎回の報告会終了後に、参加者へのアンケート結果をもとに検証を行い、次はどうすればより良くなるか、というPDCAサイクルを回し、常に実施要領やマニュアルをアップデートし、どうしたら一般市民の声を聞くことができるのかなど、改めて報告会のあり方を検討しているからであった。

また、議会報告会における課題として挙げられていた、参加者の年齢層の偏りや、若年層の意見の不足等の課題を解決するために、近年では幅広い世代の意見集約や、参加者が発言しやすい環境づくりに努めている。

・「出張！議会広聴の日」の実施

彦根ゆかたまつりでシールアンケートを実施し、市民に公民館へ足を運んでもらうのではなく、議員が市民の集まる場所へ出向くスタイルで、普段は議会報告会に参加しにくい子育て世代や若年層の要望を調査している。

・YouTubeでのライブ配信

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、オンラインでの意見交換会や、YouTubeを利用した議会報告のライブ配信・アーカイブ配信を実施し、現在も、対面とオンラインを組み合わせるなど、参加方法の選択肢を広げている。

・大学との連携

地元の教育機関である滋賀大学と連携し、哲学対話などの講義の一環として、学生と議員が直接意見交換を行っている。

※滋賀大学経済学部と彦根市議会は平成29年8月1日に「滋賀大学経済学部と彦根市議会との連携および協力に関する協定書」を締結している。

2. 子ども議会について

【実施方法】

- ・目的 小学生が政治への関心を深め、社会参画への意欲を培うこと。
また、保護者に市議会や行政の取組をより身近に感じてもらうこと。
- ・対象者 市内の小学6年生（最大24人）

- ・体制と役割 彦根市、彦根市教育委員会、彦根市議会の「三者共催」で行われており、議会単独ではなく、教育行政と連携している点が運営を円滑にしている。
 - * 市議会・・・運営全般（議会開放促進委員会が中心）
 - * 教育委員会・・・市内 17 小学校との連絡調整
子ども議員の補助
 - * 執行部(企画課)・・・答弁作成、本番での答弁

彦根市議会の子ども議会は、単なる 1 日限りのイベントではなく、事前の学習プロセスが徹底されている。

①事前研修会…8 月（夏休み期間中の平日）

- ・子ども議員選出書面交付式
- ・質問の仕方、質問書の作り方について（議員から説明）
- ・質問内容の決定、質問の作成

②リハーサル（1 週間前）

- ・議長選出（3 人）、議席発表
- ・議場入場、議場開放促進委員によるデモンストレーション

③本番（11 月）集合写真撮影

開会 第 1 グループ 8 人×5 分

第 2 グループ //

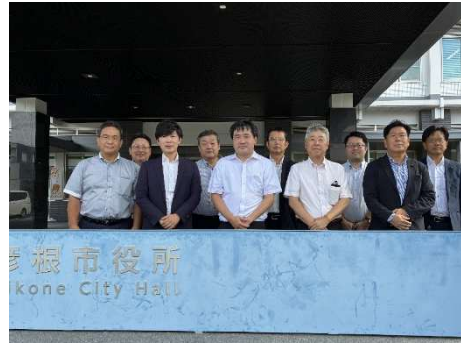
第 3 グループ //

閉会 ※議員は市長提示の手伝いなど、裏方としてサポート

実施にあたり市議会は、議会開放促進委員会が、子ども議会に係る運営全般を担当し、事前に 4 か月の期間をかけ本番に近い形式で開催していた。

これまでに子ども議会を計 16 回実施しており、親や親族まで参観が可能で、兄弟姉妹で子ども議員を経験するケースもでていることから、子どもに加え保護者も、議会や市政をより身近なものに感じられるきっかけづくりとなっている。また、子ども議会をきっかけに経験者が市の職員に就職する例も見られるという。

一方で、課題として、少子化や学校イベントの多様化に加え、児童の習い事などにより、日程調整が難しく、参加層の偏りや参加人数の減少が目立ってきた、とのことであった。



【所感】

彦根市議会では、広報広聴機能を「広報」「広聴」「議場開放」と明確に位置づけ、全議員が役割を分担して主体的に関わっている組織的な運営体制は、一部の負担に偏らない持続可能な仕組みとして、さぬき市議会にとっても大いに参考になるものであった。

議会報告会では、市民が議会に関心を持たないのは議会側のアプローチが不足しているからではないか、という真摯な自己評価のもと、常に開催手法の改善を図り続けており、その姿勢は見習うべきものであった。

子ども議会では、子どもたちの市政への関心を飛躍的に高めていたことに加え、子どもが登壇することで、その保護者や祖父母が傍聴に訪れ、結果として幅広い世代に市議会を身近に感じてもらうという広報効果を生んでおり、議会への関心の裾野を広げる起爆剤になっていると感じた。

視察を通じて、議会改革の先進的な議会は、新しい手段を使っているから凄いのではなく、市民のハードルを下げる工夫と、議員自らが汗をかく姿勢が根付いているからこそ高く評価されているのだと痛感した。

さぬき市議会としても、議会改革を一步ずつ着実に進め、市民から「開かれた議会」「頼りになる議会」として信頼されるよう、更なる議会改革に邁進していく決意を新たにする視察となった。

備 考

(参加者) 議会運営委員会委員 8 名、議長、議会事務局 2 名 計 11 名